

小学生が図書司書に挑戦 一日図書館司書体験実施

一日図書館司書体験は3日、中央図書館で行われました。市内の小学5・6年生を対象に夏・冬休みに実施し、図書館や司書の仕事に理解を深めてもらうことを目的としています。

参加した児童6人は、書架の整理や本のカバー掛け、カウンターでの本の貸し出しなどを体験。黒沢尻東小学校6年の目黒有紀さんは「普段は見られない場所や特別な体験ができて楽しい」と笑顔を見せていました。

カウンターで図書の貸し出し手続きをする一日図書館司書



約150人の参加者が集まる中、説法する山田貫首

中尊寺ゆかりの地で説法 多間院伊澤家で青空法話

和賀地区の地域づくりの一環として開催されている青空法話は7月30日、中尊寺貫首の山田俊和師を招き、国指定重要文化財の多間院伊澤家で開かれました。

山田貫首は、初めに参加者と共に黙とうをささげ、震災で引き起こされた被害に対し、一人ひとりが考え行動することが大切だと説きました。復興に向かう中で登録となった平泉の世界遺産にも触れ、「日本だけでなく世界の宝物となった。責任を負うが力を出したい」と抱負を述べていました。

百歳これからもお元気で

川村キヨシさん

介護老人保健施設たいわに入所している川村キヨシさんが百歳を迎えられ1日、祝う会が開かれました。

キヨシさんは明治44年7月31日生まれ。故久雄さんとの間に子ども3人をもうけましたが、32歳で夫と死別。以後、着物の仕立てをしながら子どもを育て上げました。現在は孫5人、ひ孫12人に恵まれています。高橋市長や施設入所者からお祝いを受け、「大変な時もあつたけれど、今は幸せいっぱい」と感謝していました。

高橋市長から笑顔で祝い状を受け取るキヨシさん(中央)



親せきとたくさんのお孫たちに囲まれ喜ぶヒテさん(前列中央)

高橋ヒテさん

和賀町藤根にお住まいの高橋ヒテさんが百歳を迎え7月20日、自宅に高橋市長が訪問して祝い状と記念品を贈りました。

ヒテさんは明治44年7月20日、秋田県雄勝町(現湯沢市)生まれ。山菜やキノコ採りが得意で、90歳ぐらいまで山登りをしていたそうです。子6人、孫15人、ひ孫27人、やしご5人に恵まれているヒテさん。家族らの祝いを受け、「何も言うことはない。皆さんに祝ってもらい、日本一の幸せ者」と喜んでいました。

産直で地域づくりを推進 更木産直市開催初の試み

更木産直市は11日、旧北上農協更木支店跡地で開かれました。更木町振興協議会の地域づくりの一環で、市のきらめく地域づくり交付金を活用して開催。地元の農産物や花き、加工品が並んだほか、更木産うるちごめに桑パウダーをまぶした五平もちが振る舞われました。出店した駒込光子さんは「お客さんとの会話が楽しい」と顔をほころばせていました。

今回は盆の時期に合わせて試験的にを行い、これを踏まえて、今後本格的に進めていく予定です。



農産物や墓に供える花を買い求める地域の皆さん



被災地支援を胸に、高座にのぼる志の輔さん

笑いを沿岸復興の一助に 志の輔師匠が慈善落語会

立川志の輔チャリティー落語会は9日、さくらホールで開催されました。第1部は沿岸被災者200人を招いて、第2部は一般来場者のチケット代を義援金とする2回開催。前日に陸前高田市を訪れた志の輔さんは「東北魂を垣間見て驚いた」と、復興に向けて歩いていくまちの様子に感心していました。

舞台では落語のほか、三味線など他の出演者によるステージを披露。会場からは大きな笑いと「ありがとう」の音が響きました。

夏油高原で自転車レース ヒルクライム大会初開催

きたかみ夏油高原ヒルクライム2011～がんばっぺ!!東北～は21日、夏油高原に至る登り坂をコースに開催されました。被災地の復興への応援も込められた大会で、参加者は県内外から532人。岩崎城運動公園を発着点に、ゴールの夏油高原スキー場までの18.1kmを競いました。

同大会は夏油高原の自然を生かし、観光の活性化につなげる目的で初開催。レース参加者は、大自然の中でそう快な走りを見せていました。



岩崎城運動公園からスタートするレース参加者



仙台から口内入りをした領主の大名行列を再現

伊達藩の大名行列厳かに 口内地区で浮牛城まつり

第5回浮牛城まつりは16日、口内地区で行われました。東日本大震災犠牲者への供養を兼ねての開催。恒例となった大名行列では、装束をまとった住民53人が同地区交流センターから浮牛城址までを練り歩きました。領主役を務めた高橋市長は「殿様役は光栄。城跡の整備もすばらしく、今後も地域が一つになって頑張っしてほしい」とあいさつ。沿道には見物客が並びました。浮牛城址では、地域の民俗芸能発表会がまつりを盛り上げたほか、盆供養も行われました。